

平成 30 年度 病虫害発生予察注意報第 2 号

平成 30 年 9 月 3 日
静岡県病虫害防除所長

病虫害名：果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ）
対象作物：かんきつ、かき、ナシ、キウイフルーツ等

1 注意報の内容

- (1) 発生が予想される地域： 県内全域
- (2) 発生が予想される時期： 9月～10月
- (3) 発生程度： 多い
- (4) 防除時期： 9月～10月

2 注意報発表の根拠

- (1) 繁殖場所であるスギ・ヒノキ林において8月以降の新成虫の発生量が多く、カメムシ叩き落とし調査では、果樹カメムシ類の平均寄生数は8.7頭（平成1.9頭）と平成の4.6倍であった（表1）。
- (2) 果樹カメムシ類の好適な餌であるヒノキ毬果（種子）において、毬果1個あたりカメムシの吸汁痕数が20を超えると、スギ・ヒノキ林から離脱し餌を求めて果樹園へ飛来する（図1）。8月中下旬のヒノキ毬果におけるカメムシの平均吸汁痕数は23.0（平成7.1）と20を超えていた（表1）。
- (3) 予察灯における8月第1から第4半旬の合計誘殺数は、チャバネアオカメムシは県平均695.7頭/箇所（平成320.2頭/箇所）、ツヤアオカメムシは291.3頭/箇所（平成50.0頭/箇所）、クサギカメムシは361.7頭/箇所（平成51.5頭/箇所）と平成より多かった（図表省略）。特に磐田市敷地における8月第1から第5半旬の予察灯誘殺数はチャバネアオカメムシが平成の5.7倍、ツヤアオカメムシが平成の8.8倍、クサギカメムシが平成の5.5倍（図2）と山間部に近い地域で多かった。

3 防除方法

- (1) カメムシ類の飛来に注意し、ほ場で発生を確認したら直ちに薬剤防除を行う。成虫の移動範囲は広いので、地域での一斉防除が効果的である。スギ、ヒノキ林の隣接地域（特に中山間地）や台風通過後に園地で急激に発生が増加する場合があるので特に注意する。
- (2) 農薬による防除については「農薬安全使用指針・農作物病虫害防除基準（ホームページ<http://www.s-boujo.jp/>）」を参照する。なお、収穫時期と農薬による防除が重なる場合は収穫前日数に注意して薬剤を選択する。
- (3) 今後の発生状況は予察灯・フェロモントラップ誘殺消長が参考になる。誘殺情報は病虫害防除所ホームページ（<http://www.agri-exp.pref.shizuoka.jp/boujo/boujo.html>）で提供している。
- (4) 10月末でカメムシの発生は終息すると予想されるが、最高気温が20℃を超える場合は11月でも発生することがあるので注意する。
- (5) 不明な点については病虫害防除所、農林技術研究所果樹研究センター、または最寄りの農林事務所、農協等に問い合わせる。

表1 果樹カメムシ類のスギ・ヒノキ寄生数とヒノキ毬果の吸汁痕数(8月)

	チャバネアオカメムシ		ツヤアオカメムシ		クサギカメムシ		合計(10結果枝当たり)			ヒノキ毬果の吸汁痕数(1毬果当たり)
	成虫数	幼虫数	成虫数	幼虫数	成虫数	幼虫数	成虫数	幼虫数	成幼虫数	
東部	11.0	2.8	0.2	0.0	0.00	0.2	11.2	3.0	14.2	23.7
中部	2.4	0.8	0.0	0.0	0.0	0.2	2.4	1.0	3.4	22.4
西部	4.8	0.4	3.2	0.1	0.1	0.1	8.1	0.5	8.6	22.9
県平均	5.7	1.0	1.7	0.05	0.05	0.1	7.5	1.2	8.7	23.0
平年値	1.0	0.4	0.2	0.1	0.2	0.01	1.5	0.5	1.9	7.1



図1 果樹カメムシ類の7~10月の生態

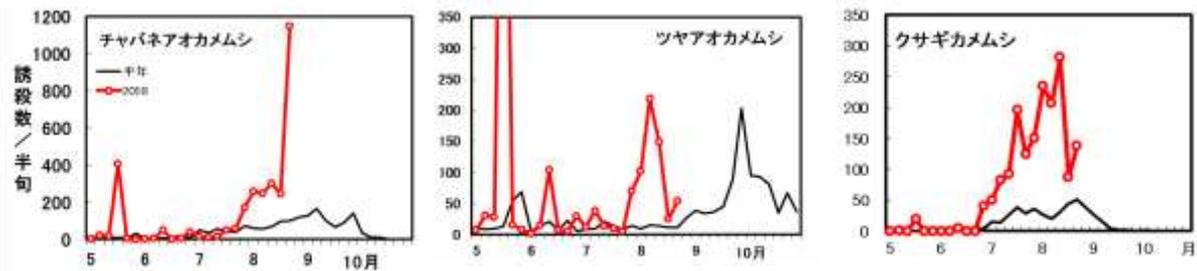


図2 磐田市敷地における果樹カメムシ類の予察灯誘殺数



図3 主な果樹カメムシ類の成虫と果樹の被害果

問い合わせ先：静岡県病害虫防除所 (TEL: 0538-36-1543)